



青 農 整 号 外
令和 3 年 12 月 23 日

報 道 機 関 各 位

青森県 農林水産部 農村整備課長
(公 印 省 略)

環境公共通信 第 52 号について

「環境公共」に関する情報を広く発信するため、別添のとおり環境公共通信 第 52 号を発行し、県庁ホームページ内「環境公共－地域づくりの新しいかたち－」に掲載しましたので、お知らせします。

「環境公共－地域づくりの新しいかたち－」 URL

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/kankyokoukyou.html>



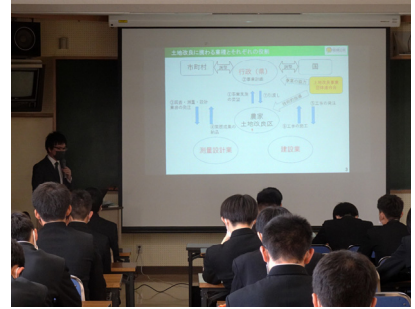
報道機関用提供資料	
担 当 課 担 当 者	農林水産部農村整備課企画・調整グループ GM 石黒 峰成
電 話 番 号	直通：017-734-9545 内線：4876
報 道 監	農林水産部 次長 石澤 雅史（内線：4966）



■最近の話題

土地改良の魅力を伝える「出前講座」を開催しました

青森県では、近年、建設会社や測量設計コンサルタント会社、土地改良区及び県土地改良事業団体連合会（以下、県土連）等の農村地域の維持に必要な土地改良を支える“人財”の不足が問題となっています。そこで、人財確保に向けた土地改良の魅力発信の一環として、県重点枠事業「土地改良人財確保推進事業（R3～R4）」を活用し、県内の農業高校や大学において出前講座を開催しました。



出前講座の様子

令和3年11月16日に三本木農業高校で開催した出前講座では、環境土木科の2年生35人が参加し、県から土地改良事業を担う行政や土地改良区、建設会社等のそれぞれの役割を説明した後、県土連、建設会社及び測量設計コンサルタント等の各担当者から、具体的な取組事例等について若手職員の体験談を交えて生徒にわかりやすく伝えました。参加した生徒の一人は、「仕事のやりがいについてなど、詳しく聞いて進路選択の参考になった」と話していました。

このほか、五所川原農林高校や弘前大学でも同様の出前講座を開催しており、土地改良分野への就業につながることを期待されます。

あおもりの農山漁村フォトコンテストの最優秀賞が決定しました

環境公共学会（事務局：県土地改良事業団体連合会）では、6回目となる「あおもりの農山漁村フォトコンテスト」を実施しました。このコンテストは、農林水産業を営む人々の豊かな表情や、伝統文化行事、四季を通じたあおもりの農山漁村の風景などを募集し、その魅力を伝え、これらを守り育てることの重要性を再認識することを目的に開催されています。



「笑顔の空間」

今回は、人々の暮らし部門（テーマ「活気」）と農山漁村の風景部門（テーマ「憩い」）の2部門で募集したところ、159作品（96名）の応募がありました。11月29日の審査会では、6名の審査員による厳正な審査が行われ、人々の暮らし部門では白山健悦氏（おいらせ町）の「笑顔の空間」、農山漁村の風景部門では山内雅人氏（弘前市）の「金魚が泳いだ五月の朝」が最優秀賞に選ばれました。入賞作品は環境公共学会ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



「金魚が泳いだ五月の朝」

（環境公共学会HP：<http://www.aodoren.or.jp/kankyokoukyo-gakkai/photocontest.html>）

■「環境公共」事例紹介

大川平地区(東津軽郡今別町)～地域農業を次世代へ引継ぐための取組～

1 地区の概要

本地区は、東津軽郡今別町南部に位置し、二級河川今別川両岸に広がる約60haの水田地帯です。本地区の課題は、地域の農業者の高齢化や後継者不足に伴う労働力不足、耕作放棄地の増加が懸念されていることです。また、小区画で不整形な未整備地域であり経営農地が分散しているほか、耕作道も狭く農業機械での作業に支障を来していること、用・排水路も土水路であることから、水管理や施設の維持管理に苦慮しています。

こうした課題を解決するべく、令和2年度から経営体育成基盤整備事業(ほ場整備事業)に取り組んでいます。



地区全景(ドローン撮影)

2 事業化までの経緯

本地区の上流に位置する二股地区(平成29年度着工)は、平成28～29年度に、ほ場整備事業の調査が行われた背景があり、また、本地区と土地所有者や耕作者も重複することから、ほ場整備に対する機運が高まり、事業に取り組みたいという要望が多く地元農家から上がりました。

地元農家からの地域農業を守りたいという要望に対し、今別町はこれを支援することとし、ほ場整備事業に向けた勉強会や一定地域の調査を行いました。また、平成29年度には地区推進協議会を設立し、平成30年度からは、県において調査計画が行われました。

調査計画の段階では、地元農家において地区の整備構想や農地の集積計画を検討するほか、地域の所得向上を図るための営農計画について、何度も話し合いを重ねて事業計画を策定し、令和2年度に国の補助事業が採択となっています。

3 現在の状況

令和2年度は地区内の詳細な調査測量、実施設計を行い、令和3年度は今別川右岸側約30haにおいて区画整理工事が進められており、令和3年10月現在、工事は最盛期を迎えています。

また、本地区は東青管内の環境公共モデル地区として位置づけられており、「耕畜連携による循環型農業と高収益作物の導入」と称し、地区内で発生した稲わらと家畜排せつ物等の堆肥を活用した土づくりによる資源循環の取組を推進するとともに、高収益作物の導入による地域の所得向上を図ることを目標としています。



環境公共モデル地区PR資料